

事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス ここりっと
------	-------------------------

公表日 2025年3月31日

	チェック項目	評価			工夫している点	課題や改善すべき点
		はい	どちらとも いえない	いいえ		
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2		活動スペースの使い分けを行い、安全面と活動のしやすさの両立に配慮しています。	利用人数の増加に伴い、より適切な環境設定が必要なのが想定されるため、状況に応じて工夫しています。
	2 職員の配置数は適切である	5	1		子どもの人数や状況に応じて必要な支援が行えるよう、職員配置を調整しています。	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2		視覚的にわかりやすい環境設定を心がけ、子どもが見通しを持って過ごせるよう配慮しています。	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	2	2	日々の振り返りや定期的な話し合いを通して、職員が継続的に改善に関われるようにしています。	より多くの職員が業務改善に主体的に関われるよう、振り返りや意見交換、またそれらの記録を体系化するなどしてさらに充実させていきます。
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	3		保護者の皆様からいただいたご意見を把握し、日々の支援や運営の見直しに活かせるよう努めています。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2		自己評価の結果については、保護者の皆様にもわかりやすくお伝えできるよう、公開方法に配慮しています。	自己評価結果の周知方法について、よりわかりやすくお伝えできるよう工夫しています。
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		3	3		今後、必要に応じて外部評価も行ないながら取り組んでいきたいと思っております。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	3		支援の質の向上につなげられるよう、研修機会を設けております。	より適切な支援を行うために、研修の回数を増やし、内容も充実させていきます。	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	5	1		子どもや保護者の思いを丁寧に確認しながら、日々の様子も踏まえて計画作成を行っています。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	1		日々の観察と必要なアセスメントを組み合わせ、子どもの状況把握に努めています。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	6			活動内容は複数職員で相談しながら立案し、多面的な視点を取り入れるようにしています。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1		季節や子どもの興味関心、その時期の課題に応じて内容を見直し、活動の幅を持たせています。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6			平日・休日・長期休暇それぞれの生活リズムや利用時間に応じて、課題や活動内容を調整しています。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6			子どもの状態や目標に応じて、個別活動と集団活動を組み合わせ支援しています。	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6			支援前に打合せを行い、当日の流れや役割分担を確認した上で支援に入るようにしています。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6			支援後に気づきや課題を共有し、次回の支援に活かせるよう振り返りを行っています。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1		支援記録を継続的に残し、子どもの変化や支援の効果を振り返りやすいようにしています。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6			定期的にモニタリングを行い、現状に合った支援内容となるよう見直しを行っています。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	4	2		複数の基本活動を意識しながら、子どもの成長につながるよう支援内容を組み立てています。		
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4	2		基本的には、児童発達支援管理責任者が会議へ参加しております。児童発達支援管理責任者も現場での支援にも携わったり、他の職員ともよく情報共有を行っていることで、本人の状況も理解して参画しています。	
	21 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1		学校と必要な情報共有を行い、送迎や支援上の連携が円滑に進むよう心がけています。	
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	4	2		医療的ケアが必要な場合には、主治医等との情報共有や連絡体制の整備に努めています。	
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	6			就学前の支援機関との情報共有を通して、継続性のある支援につながるよう努めています。	
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		6		現在のところ、学校卒業に伴う移行対象児童はいません。	今後、対象となる子どもがいる場合には、移行先へ必要な情報を適切に提供し、円滑な引き継ぎが行えるよう努めていきます。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		必要に応じて児童発達支援センター等と情報共有を行い支援の質の向上に活かしています。	

連携	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		2	4		地域との交流機会については、こどもの状況や実情に応じて無理のない形で広げられるよう工夫していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	3		自立支援協議会等については、必要に応じて参加し、地域の関係機関との情報共有や連携に努めています。	今後は、参加の機会をさらに確保し、地域とのつながりや情報共有をより深められるよう努めています。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6			送迎時や連絡手段を活用し、日頃から保護者と子どもの様子を共有するようにしています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	3	1	2	今年度は保護者会を設け情報提供の機会を設けました。	研修会を定期的に開催し、情報提供を行うなど、発信の機会を増やしていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1		契約時等にわかりやすい説明を心がけ、不明点が残らないよう丁寧に対応しています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1		相談しやすい雰囲気づくりを心がけ、必要に応じて面談や助言の機会を設けています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	1	1	保護者同士がつながる機会について、事業所の状況に応じて設けられるよう工夫しています。	今後は、保護者同士やきょうだい同士が交流できる機会について、事業所の状況に応じてより工夫しながら回数を設け、充実を図っていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	1	1	苦情や要望を受け止める体制を整えています。	保護者への周知をより徹底し、苦情対応を適切に行う体制を整えていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	2	1	SNS等を通して、活動内容や予定を発信しています。	情報発信の内容や方法について、保護者にとってよりわかりやすいものとなるよう様々な活用ツールを使用し工夫していきます。
	35	個人情報に十分注意している	2	3	1	個人情報の管理ルールを職員間で確認し、取扱いに注意しています。	利用児童数の増加に伴い、個人情報をより適切に保管できる環境整備が必要と考えています。今後、十分な保管庫を整備し、より安全管理体制の充実にも努めていきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	1	1	子どもや保護者に応じた伝え方を意識し、わかりやすい情報伝達に努めています。	情報伝達ツールの活用方法など、随時見直しが必要な点は適切に運用できるように修正していきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	1	2	兄弟などのご家族が参加できる行事などを設けております。	地域に開かれた事業所運営を目指し、実情に応じた地域との関わり方をさらに工夫していきます。
	非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	1	2	各種マニュアルを整備し、職員や保護者への周知を行いながら緊急時に備えています。
39		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	2	1	BCPや防災対応を整備し、定期的な訓練を行っています。	今後は訓練の回数も増やし内容の充実にも努め、緊急時に適切に対応できる体制を強化していきます。
40		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	2	2	2	日々の情報共有等により適切な支援の継続に努めています。	虐待防止に関する理解をより深められるよう、研修の機会を設けるとともに、日頃の確認を継続していきます。
41		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2		身体拘束が必要となる場合の考え方を事前に整理し、保護者への説明と計画への反映を徹底しています。	
42		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	1	アレルギー情報を事前に確認し、必要な対応を職員間で共有しています。	必要に応じて医師の指示書をご提示いただくなど、より適切な対応を徹底していきます。
43		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	1	1	4	ヒヤリハット事例を記録・共有しています。	今後は事例集として整理するなどして、より再発防止策の検討と実践につなげていきます。